

普及活動検討会実施報告書

美里農業改良普及センター
実施月日：令和4年2月22日～3月2日
実施場所：書面開催

1 検討内容

No	検討項目
1	(継続課題) 土地利用型農業法人の早期経営安定
2	(完了課題) 持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上
3	(新規課題) 蔵元のニーズに対応した「吟のいろは」の品質向上と栽培定着
4	(新規課題) 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定
5	普及計画や普及活動等についてのご意見・ご要望

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	
若手・女性農業者	2	学識経験者	
市町村	3	マスコミ	
農業関係団体	1	民間企業	

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
1 土地利用型農業法人の早期経営安定（継続課題）	4.8	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地で農事組合法人が設立されているが、法人経営のノウハウを身につける前に法人化する例が散見される。対象の法人では課題解決に向け前向きに取り組んでいることが理解できた。このような課題を抱える法人が多いと思われるので、普及センターにはきめ細やかな経営指導をお願いしたい。 農事組合法人の将来について、後継者問題はどこの法人も抱えている。農事組合法人は1人1票であり、意思決定のスピードが遅い。土地利用型農業は地域のつながりの中で営農しており、調整役が必要である。集落内で担い手を確保するのも限界に来ており、将来的は隣接する集落で合併し、1つの担い手で大きく経営するのも方法ではないか。 R3冬は小麦は種を断念したこともあり、大豆がメインになるかと思われる。JA管内では大豆の基本単収は高く品質も安定している。しかし、一部の生産者では品質のバラつきが見られるため、技術も含めて指導願う。対象法人が農事組合法人のモデルになるよう育成して欲しい。 暗きょが施行されていない中での生産であるが、排 	<ul style="list-style-type: none"> 対象法人は地域の農地を守る法人として、大きな役割を担っていると認識しています。法人運営に必要な経営管理能力の向上や、栽培技術向上に向けた支援を行い、経営の早期安定化と発展をすすめるとともに、モデル法人として、同様の経営を行う農事組合法人への波及効果を目指します。 地域農業の担い手確保については、普及センターとしても非常に重要な課題であると認識しております。農業者と話し合いを重ねながら検討してまいります。 土地利用型作物について生産技術習得と輪作体系の確立をすすめ、法人の経営基盤強化を今後も支援してまいります。 次年度は、排水対策と土壌分析結果に基づく土づくり対策

		<p>水対策と土づくりを重点的に行うべきであると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会計の勉強会により、より良い経営判断ができるようになったことが素晴らしいと思う。栽培面については、湿害対策など課題はあるようだが、設定した目標を達成しているようなので、今後も生産性を高めていって欲しい。 ・ 改善事項は特にありません。大豆の収穫量増加に向け、指導願う。 	<p>を重点的に行う計画です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 排水対策の徹底や基本技術の励行により、より一層の生産性向上支援に努めて参ります。 ・ (同上)
<p>2 持続的な生産に向けたこねぎ栽培技術の向上 (完了課題)</p>	<p>4. 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 萎ちょう病だけが原因ではないが、年々販売高が下がっている。熟練生産者の技術を若手生産者に技術移転する手法については評価に値する。栽培技術の見える化は、どの農家にとっても今後必要になってくるものと思うので、この見える化によって、部会全体の技術向上につながり、とても良い取り組みだと思う。また、今後、新規就農者に対しても、このデータを使用することで栽培技術の習得が容易になり、就農希望者の増加につながるのではと期待している。 ・ 土づくりの重点課題は一定程度達成できているが、若手生産のハウス回転数（2作程度）が上がっていないように思われる。 ・ 改善事項は特にありません。引き続き、萎凋病対策や土壌の物理性の向上等、生産量の増加に向け取り組みと指導をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「見える化」した熟練生産者の栽培管理技術を若手や経験の浅い生産者に波及させる取組を継続してまいります。 ・ ハウス回転数が上がらないことは複数の要因が想定されるため、今後もJAと協力し生産の底上げを図ってまいります。 ・ 次年度からは重点活動として、畝立後太陽熱土壌消毒の普及や、堆肥や緑肥の施用による土づくりを推進し、生産量の増加に向けて支援してまいります。
<p>3 蔵元のニーズに対応した「吟のいろは」の品質向上と栽培定着 (新規課題)</p>	<p>5. 0</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普及センターからの生産者・蔵元への積極的な普及推進のもと、生産者も蔵元も多くの期待をもって取り組んでいると思う。蔵の華とは違った酒造好適米として、新たな宮城米の売り出しによる、農業者収益の拡大や、酒蔵の日本酒の売上向上にもつながるために大事な課題と考える。蔵元の醸造してみたの感想意見が重要だと思いますので、その意見に沿ったかたちで、さらなる普及が必要と思う。コロナ禍で苦しんでいる、蔵元の期待にこたえる上でも、早い段階で特定品種として県庁で優良品種に決定し、普及センターだけでなく、県あげでのPRなど着実な推進が必要と思う。吟のいろは、蔵の華の、味の違いを明確にし、2品種でのラインナップで、宮城ならではの良さ、違 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き蔵元や酒造組合の意見を伺い、生産者にも情報を繋ぎ、生産者と一緒に実需者が求める原料米の生産に取り組んでまいります。令和4年度も、地方振興部等関係機関と協力したPR活動や、活動情報の作成などにより、吟のいろはのPRを行う予定としております。

		<p>いをしっかり出せばいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年産は普及センターの尽力もあり、ここまで来たと感じている。旧松山町は昔から酒米が強い地域で有り、地域の特色である。引き続き御指導いただきたい。 酒米は品質が揃わないと酒が造りにくいと思うが、生産者毎の品質差があるか？精米工場を持つ企業に視察に行ったことがあるが、そこでは味が変わらないように、食味計の値で調整するなど、品質管理が徹底している。酒米もこのような考え方で品質の均一化に取り組んでは？ 改善事項は特にありません。種子確保に向けた情報提供をお願いいたします。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度も展示ほ設置による良質米づくりのためのデータ収集、生育に応じた肥培管理指導等により、生産者と一緒に吟のいろはの生産に取り組んでまいります。 栽培が始まった頃よりは品質のばらつきは少なくなってきた、という実需者からの意見もいただいておりますが、まだ十分とは言えない状態です。生産現場側としては、酒米に求められるタンパク質含有量や、心白発生率を高める千粒重の目標等を生産者に示し、それらの目標に向かって肥培管理等の助言を行い、品質の均一化が図れるよう進めて参ります。 種子の確保量や申し込み方法等の情報提供を行っていく予定です。
4 土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定(新規課題)	4. 5	<ul style="list-style-type: none"> 当該地域における加工業務用にんじんの生産については、人口減少による国内マーケットの縮小、新型コロナウイルス感染症を契機とした需要の変化など、土地利用型作物の生産振興及び更なる作付転換を推進する上で非常に重要な取組である。この取組に関しては、町内に新たに立地した農業法人との連携により推進され、収穫後の出荷・流通及び販売など、実需者との結びつきが強いことが特徴の一つである。こうした中、品質・収量の安定はもとより、安定供給体制の構築が急がれるところであり、定量的目標など、もう一段高い目標設定が望まれるところである。生産面積10haを目指し排水対策や肥培管理などの技術支援をお願いしたい。 改善事項は特にありません。作付拡大と生産の定着化を期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定量的数値目標は12月末までの出荷量で設定しておりました。なお、冬作の何割かは翌年の1～3月にも出荷される予定のため、全体としての出荷量は増える見込みとなっております。本課題では2年間で対象法人の技術向上を図り生産を安定させると共に情報交換により連携を推進し、各々の面積拡大に向けた土台づくりを支援してまいります。土壌の化学性及び物理性の改善についても取組を進めてまいります。 (同上)
5 普及計画や普及活動等についてのご意見・ご要望	—	<ul style="list-style-type: none"> 本市でのグリーンな栽培体系推進への実証等評価も、大崎普及とも連携の上、協力願う。 	<ul style="list-style-type: none"> グリーンな栽培体系の推進につきましては、関係部署や関係機関と連携して支援してまいります。